

今年度行われた清掃活動のご紹介

エンルム岬 DE ごみ拾い

エンルム岬の東側海岸は大きな湾になっていて、多くの漂着物やごみが流れています。キレイな海と海岸を次の時代に残していくために、去年に引き続きごみ拾いを行いました。今年度は5月（40名）と10月（45名）の2回、日高信用金庫職員のかたやNECネットエスアイ（株）北海道支店、地域住民のかたがたのご協力をいただき実施しました。

前ページで紹介した海岸のごみはこの日集められたもの。ここを訪れた人が気持ちよく過ごせるようなキレイな海岸であってほしいです。



信金クリーンアップデー

毎年、地域への貢献活動の一環として、日高信用金庫のかたがたにより清掃活動をしていただいている。清掃活動には14名の職員が参加し、二手に分かれて大通地区と本町地区の歩道のごみや住宅周りなどさまざまな場所からごみを回収しました。



日高信用金庫職員による清掃。歩道には車からポイ捨てされたであろうタバコの吸い殻やペットボトル、空き缶が目立ちます。

→ポイ捨てされたペットボトルや空き缶、放置された花火やおもちゃのごみなども。



Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦

コープさっぽろは海洋汚染問題への取り組みとして、道内の海や河川などの清掃活動を実施しています。その一環で6月には、親子岩ふれ愛ビーチでの清掃活動を行っていただき、コープさっぽろの職員のかたや第一生命（株）日高営業オフィスのかた、地域住民のかたほか約60名が参加し、ビーチ周辺のごみを拾い集めていただきました。



きれいなまちで気持ちよく vol.2

近年、ごみの問題は世界中で数多く議論されるようになりました。その中でも、特に深刻だと言われているのは海洋プラスチックごみの問題です。年間約800万トン（ジャンボジェット機にして5万機相当にあたります！）増え続けていて、早急な対応が求められています。

その影響については、まだ調査中で未知数なところも多いですが、海洋生物の生態系や微細になったプラスチックを魚が摂取してしまうこと、沿岸地域の環境汚染など、主に漁業や観光業への影響が懸念されています。

海洋プラごみはどこからくる？

海には合計約1億5千万トン以上のプラスチックごみが存在すると言われています。今のペースで増え続ければ2050年には、魚よりごみの量が多くなると推定されています。

毎年増え続ける海洋プラごみはどこから来るのか？最近の調査で、これらのごみの7～8割がまちで生まれたものだということがわかりました。さらに、ポイ捨てされたごみだけではなく、ごみ箱や集積所から溢れたごみなどもその一因になっていたことが判明しました。



エンルム海岸に投棄された大型ごみ。まちから流れ出たと見られる生活ごみも多く見られました。遠い異国之地から流れ着いたごみも。



まちで出たごみが海に流れ出るまで

1. まちでごみが生まれる

- ・ポイ捨てされたごみ
- ・ごみ箱や集積所から溢れたごみ



2. ごみが排水溝に流れる

- ・雨や風によってそれらのごみが排水溝へ流れつく



3. 排水溝から川、海に流出する

- ・海洋環境が汚染されてしまう



日常生活の中から出たちょっとしたごみが海に流れ込んでしまう、まずはこのような現状を認識することが大切です。

私たちができること

環境問題というと個人での取り組みは難しいように思えますが、日常生活の中でも手軽に始められることもあります。

- ・ごみをポイ捨てしない
- ・エコバックを使用する
- ・ごみを見つけたら拾って捨てる
- ・ごみ拾いのイベントや活動に参加する

私たちの小さな心がけがまちの景観、さらには海の豊かさや地球環境を守ることにつながります。今日始められることから行動に移してみましょう。